

※
 如来滅後五百歲始觀心本尊抄

文永十年（一二七三）四月二十五日。
 五十二歳。於佐渡一谷。十七紙一帖完
 中山法華經寺藏。（定七〇二頁 原漢文）

本朝沙門 日蓮 撰

摩訶止觀第五に云く、
世間と如是と一なり。開合の異なり。

「夫れ一心に十法界を具す。一法界に又十法界を具すれば百法界なり。一界に三十種の世間を具すれば百法界に即ち三千種の世間を具す。此の三千、一念の心に在り。若し心無くんば已みなん。介爾も心有れば即ち三千を具す。乃至、所以に称して不可思議境と為す。意此に在り」等云云。
或る本に云く、一界に三種の世間を具す。
 問うて曰く、玄義に一念三千の名目を明かすや。答えて曰く、妙樂云く、明かさず。問うて曰く、文句に一念三千の名目を明かすや。答えて曰く、妙樂云く、明かさず。問うて曰く、其の妙樂の釈如何。答えて曰く、「並に未だ一念三千と云わず」等云云。問うて曰く、止觀の一・二・三・四等に一念三千の名目を明かすや。答えて曰く、之無し。問うて曰く、其の証如何。答えて曰く、妙樂云く、「故に止觀の正しく觀法を明かすに至りて、並に三千を以て指南と為す」等云云。疑いて云く、玄義の第二に云く、「又一法界に九法界を具すれば百法界、千如是あり」等云云。文句の第一に云く、「一入に十法界を具すれば一界又十界なり。十界に各十如是あれば即ち是れ一千なり」等云云。觀音玄に云く、「十法界交互なれば即ち百法界有り。千種の性相冥伏して心に在り。現前せずと雖も宛然として具足す」等云云。問うて曰く、止觀の前の四に一念三千の名目を明かすや。答えて曰く、妙樂云く、明かさず。問うて曰く、其の